

令和 6 年度 5 月 土浦市議会 会派合同行政視察 報告書

土浦市議会議員 下村 壽郎

実施日 : 令和 6 年 5 月 8 日 (水) ～5 月 10 日 (金)

視察先

- ・ 島根県隠岐郡隠岐の島町、西ノ島町、海士町

視察目的

- ・ ジオパークを活用した地域づくりについて

対応者

一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構

業務執行理事 野邊一寛 様



隠岐世界ジオパーク空港



隠岐自然館



1日目 5月8日(水)の視察調査

■隠岐の島町 隠岐自然館(展示施設)

・隠岐ジオパークの概要説明

1. 大地の成り立ち 2. 独自の生態系 3. 人の営み それぞれの関係性を資料で解説する展示施設

プロジェクションマッピング、4面マルチモニターなどを駆使して、視覚に訴える効果的な設備が導入されておりました。

■隠岐の島町 ^{たまわかし}玉若酢神社

・隠岐の総社、樹齢二千年の八百杉、隠岐造り神社本殿、地形と神社の位置

隠岐造り：隠岐特有の神社形態で建物妻面に片流れ屋根の向拝があるのが特徴

地形と神社の位置：鳥居の向側(東側)前方には山があるような場所に神社を設けた。

樹齢二千年の八百杉：樹齢約2千年であり、縄文杉と比較すると標高が低い低地で生育できたことが特徴であり、隠岐は他に類を見ない自然環境であることが証明されている。



■隠岐の島町 檀鏡の滝

・日本の滝百選

滝百選の滝であるが、この地方の人々は古来よりこの滝を神聖な場所として崇拝し、神社を設けて心のよりどころとしていた。近年は神秘的なパワースポットとして PR しています。

■隠岐の島町 ^{なぐさき}那久岬

・明治時代と現在の灯台、島前と島後の違い

明治時代は灯台の役割をしていた灯籠が残っています。この岬から見える島前の^{どうぜん}島々は火山活動で形成された事をうかがい知ることができます。

岬の地形を活用した牛の放牧地となっており、訪れる人々は近づいてくる牛に歓声を上げていました。

■隠岐の島町 都万海岸^{つま}

・イカ寄せの浜

海流の影響でイカの群れが押し寄せ砂浜に打ち上げられる。

・船小屋と日本海の特徴

木造船を使用しない時には陸揚げして保管する小屋、太平洋の地域では見られないが、日本海は干潮と満潮の差が約50cmであり船の引き上げが可能な事が、フナクイムシから船を守るため、このような船の保管倉庫が考え出された。

2日目 5月9日(木)の視察調査

この日の朝は、ホテル前で集合予定でした。たまたま、そこに70歳前半のご婦人がいらっしゃいました。そこへ野邊先生が来ましたので、朝の挨拶をしようとしたのですが、野邊先生は、そのご婦人へ向かい、挨拶や他のお話をされましたので、少し待っていました。野邊先生は、この方は20数年前まちづくりで大変活躍された方です。今でもお世話になっている方です。このような方がいらっしゃるから私たちも頑張れます。また、ジオパークを推進できたと突然のお話でした。なるほど、野邊先生が自慢したくなる人にお会い出来ました。昨日から、自然についての案内でしたが、自慢したくなる人が必ずいるはずですね。と野邊先生と会話しました。会話の中で、観光ガイドの話も出ましたが、全員集合したので、お話は中断。

■海士町 ホテル Ento (ホテル名称の由来、罪人が隠岐へ遠島された事から)

・ジオパークの理念を取り入れたホテル

2017年にオープンした、ユネスコ世界ジオパークの拠点機能と宿泊機能が一体となったジオホテル。

Ento Geo room Discover

ここでは地球と隠岐の成り立ちや島前3島の魅力などを学べる展示室を併設しています。

Ento ジオラウンジ

窓一面のジオ・スケールと恐竜などの古生物の化石が展示されています。

このラウンジのソファに腰掛け外を見れば窓一面に広がる自然が借景となり大きな自然画です。ホテルエントーの室内もこのような空間を醸し出す同様な造りだそうです。





■海士町 後鳥羽院御火葬塚と隠岐神社

- ・後鳥羽院御火葬塚
- ・後鳥羽上皇を祀る神社

承久の乱(1221年 承久3年)で敗北した後鳥羽天皇が隠岐に遠流(配流)された。この地の源福寺で19年間をお過ごしになられ崩御された。

■海士町 明屋海岸

- ・大地の成り立ちと神話の関係

火山の噴火による地形の変化や地層が目視で確認できましたが、海岸はあいにく波が高く散策できませんでした。海の向こうには島後の隠岐の島が見える景勝地でした。

■西ノ島町 赤尾展望台

- ・国賀海岸を望む風景

国賀海岸の特徴：島前西ノ島の西側は日本海の荒波を受けて岸壁が浸食され続けた浸食海岸を一望でき断崖絶壁や奇岩など地形の変化を観察できました。

展望台周辺には牛馬が放牧されていて、道路を遮るようなことも当たり前で車のドライバーは慎重な運転が必要でした。牧化の地はのどかで時間の過ぎるのを忘れてしまいそうでした。

- ・サイト看板の作成について

隠岐ジオパーク推進機構が作成している看板についての説明がありました。



■西ノ島町 国賀海岸 魔天崖

・浸食によって創り出された風景

波の浸食によって形成された海拔257mの大絶壁は、火山活動の記録となる地層の変化を露わにしています。

景勝地ではありますが、サスペンスTVドラマ等の撮影場所でも有名な危険な場所としても有名かもしれません。

牛馬を放牧しているので草原のようですが、起伏のある大地と急斜面や絶壁が素晴らしい景観です。

■西ノ島町 ^{ゆらひめ}由良比女神社

・島前一宮、自然現象と信仰のはじまり

平安時代に隠岐の国一宮に定められた古社。イカにまつわる伝説のある神社。

神社目の湾の砂浜には、イカの大群が押し寄せられこのイカを取り富豪となったお巡りさんの物語が有名だそうであるが、この地の人々もイカを採りその売り上げによって生活が一変したそうです。神社にはイカを素手で採っている様子が描かれた絵がありました。

■西ノ島町 船引き運河

・大正時代に作られた運河、地形と人の暮らしとの関係

浦郷港側の湾内から日本海側への至近距離を求めて大正時代に造られた運河で、この地の人々の暮らしに多大な貢献があった。橋の上から観察してみると、ここは運河にする最適な地形であるとともに、日本海側への通運が最短距離となる最適地であり漁業だけでなく生活をするうえで利便性を高める最適地であることが分かる。

■西ノ島町 黒木御所跡

・後醍醐天皇の行在所跡です。この地は高台にあり別府港の湾内を一望でき、ここへ配流された後醍醐天皇は湾内から監視する警備の者の目をかいくぐり、この地から、山の尾根づたいに逃亡したそうです。

◆質問

黒木御所を後に別府港へ戻り、そこで、タクシーの料金を支払った後に、観光ガイドの方から、隠岐のPR用パンフレットを頂きました。通常は予約等により観光案内をしている。また、研修をしていると伺いました。そこで、野邊先生に質問をいたしました。観光ガイドの皆さんは、どのくらいいますか、また、どこで研修し、認定をしていますか。

◆お答え

一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構 が研修しています。

3日目 5月10日(木)の視察調査

■ 隠岐の島町 みずわかす 水若酢神社

- ・ 隠岐一宮、隠岐古典相撲、古墳と神社の関係、黒曜石を運んだ丸木舟

隠岐造りの本殿は国指定重要文化財です。隠岐古典相撲の土俵は、化粧丸太組の大根を掛け、土俵の風格と人々の相撲に対する、心意気や伝統文化を感じました。

古墳と神社の関係

神社の奥に、この地の有力者とみられる長の古墳があり、神社と併せて崇拝したようである。

黒曜石を運んだ丸木舟丸木舟が黒曜石を運んだ事による黒曜石を媒体とした人・文化の交流が進んだ。国内各地はもとより中国との交流もあり、その果たした役割が大きいことが紹介されていました。



右上写真
水若酢神社



右下写真
丸木舟



■ 銚子ダム

- ・ 銚子ダム：隠岐片麻岩露頭

片麻岩は地殻の内部で比較的高温の中で起こる変成現象によりできるようです。つまり、隠岐の島の地表に、この様な岩石が現れていることは、地殻内部深い場所が地殻変動により隆起したと考えられるようです。

全体的な感想

隠岐ジオパーク推進機構 野邊先生から最初に、なぜジオパーク活動を始め、世界認定を目指したか についてお話がありました。

◆子どもたちが隠岐に生まれ育ったことへの誇りと愛情を持って「隠岐出身」だと言ってもらいたい。

◆島民が隠岐の価値を知り、誇りを持って「隠岐」を伝えてもらいたい。

野邊先生は自身が隠岐から離れた学生時代や社会人になってからのことについて「隠岐出身」と自信を持ち、胸を張って言えなかったとお話しされました。

このような事が無いようにするにはどうしたらよいのか。

誇りと愛情を持って隠岐を語る 野邊先生の心が私たちにも伝わってきました。
これ以降の記載は、野邊先生が講師を務めた

「誇りと愛情を持って隠岐を語る」～ジオパークを活用した地域づくりの資料を参考に
しております。

■隠岐ジオパーク推進

1 官民協働のまちづくり

(1) 観光地としての「隠岐」

1963年に大仙隠岐国立公園に指定された雄大な海岸風景と後鳥羽上皇、後醍醐天皇が配流となった歴史的背景によって、1960年代は観光地として賑わった。

(2) 盛り上がらない地域づくり(1998年以降)

- ・観光客のニーズの変化によって観光客数が減少し 経済が衰退する
- ・大型公共事業の完成によって公共事業費が削減され 経済が衰退する

400億 → 60億

商工会、観光協会、青年団などが、活性化へ向けた活動を実施



それぞれ単独での活動であったため成果が得られず盛り上がらない

地域づくりとなり、島が沈むのを待つ雰囲気であった

感想：土浦市と比較して、本市は観光資源として筑波山・霞ヶ浦を柱とした活用をしていないこと、首都圏から60kmの距離であるため宿泊を伴う観光地としての経済性は乏しい。

公共事業に頼るような産業構造は過疎地に多く見られるが、本市においては同規模の自治体と一般財源を比較すると市税が他市を上回り、企業数が多い事と市民の所得額が多いことが分かります。

市民協働のまちづくりは、本市においても各種団体が力を結集し一つの目標に向かっての活動を期待するが、危機感が不足しているのか分かりませんが、「隠岐」のこの時期が、本市では現在も同様と感じます。

(3) 住民参加型の公共事業の実施

ワークショップを活用した住民参加型の公共事業の実施
道路計画の時点から地域住民の参加



風待ち海道倶楽部の結成 (2003年5月)

(4) 風待ち海道倶楽部の活動 (2004年まで)

- 住民との協働に向けたきっかけづくり
- 情報の共有 (一方通行的な情報発信ではない)
- 小さな成功体験

活動において課題が浮き彫りになった

- ・西郷港を中心とした活動で島全体とした取り組みが必要
- ・単発的な活動であり継続した活動が必要

より広域的な活動、隠岐だからこそできる活動へ！



風待ち海道エコツアーリズム大学の開校

- 隠岐ならではの取り組み（オンリーワンの創出）
- 隠岐の価値を理解→アイデアの創出
- 新たな地域づくりの確立

2 地球を知る活動から

（1）風待ち海道エコツアーリズム大学の開校 （2004 年～）

<活動の柱>

「エコツアーリズム」による地域振興・観光振興

三つの柱

新たな観光形態
～体験型観光～

経済還元の仕組み
～有償ガイド～

地元のプライドづくり
～隠岐の価値を認知～

風待ち海道エコツアーリズム大学の講座内容



自然環境学科海洋コース

自然環境学科陸上コース

歴史学科コース

海洋生物、対馬海流、日本
海の特徴についての学習

植物、動物、昆虫、地質な
どについての学習

黒曜石～北前船までの隠岐
の歴史、神社、仏閣、祭り
についての学習

感想：官民協働のまちづくりにおいては、この地ならではの創意工夫された各種イベントが開催されますが、市民参加型のイベントは当初は参加人数が多いのですが段々と参加人数が減り、さらに予算獲得も困難となり継続が難しくなりつつあります。

「隠岐」では風待ち海道倶楽部を進展させて風待ち海道エコツーリズム大学を開校し官民協働のまちづくりを市民参加型の地球を知る活動へと導き隠岐を市民全体で支え合う原動力とし、さらに地球を知る活動が活発になるにつれ、市民の「隠岐世界ジオパーク認定へ」の運動が 2015 年 11 月世界ジオパークの事業がユネスコの正式事業化 隠岐ユネスコ世界ジオパークとなる を実現した市民パワーに驚愕するとともに素晴らしく羨ましく感じました。

本市と隠岐では地域特性の違いにより、同様な事は期待できないのかもしれませんが、市民パワーをどのようにたら結集できるのかその方策とどのような事業を行うかについて、ワークショップを活用し住民参加型で考えてゆく事が大切であると感じさせられました。

3 隠岐ジオパーク活動のはじまり

(1) 隠岐ユネスコ世界ジオパークの特徴

隠岐ユネスコ世界ジオパークの 3 つのテーマ

- ・ 隠岐諸島の「大地の成り立ち」
- ・ 北方系、南方系の植物が共存する「独自の生態系」
- ・ 古代から続く「人の営み」

キャッチコピー

「つながりを見つけよう！」

(なぜ?の理由をみつける)

感想：視察した全ての場所に、テーマとキャッチコピーに掲げた内容で、分かりやすく記載した案内看板が設置されていました。訪れた観光客への配慮が素晴らしいと感じ入りました。なお、外国からの観光客はあまり絵などの説明は必要とせず文章での説明が良いようだとの説明がありました。

4 ジオパークによる地域づくり

教育機関におけるジオパークの活用

小学校：理科、社会 中学校：総合学習の時間 隠岐高校、隠岐島前高校

- (1) ジオパークによる小・中・高一貫教育の実施
- (2) ジオパークを取り入れた教育プログラム
- (3) ジオパークによる教育プログラム
- (4) ジオパークによるブランディング：地域振興・観光振興
- (5) 隠岐空港名称変更：隠岐世界ジオパーク空港
- (6) 隠岐ジオパークビジターセンターの整備
- (7) ジオパーク＋ホテル (Ento：海士町)

5 隠岐の未来に向けて

- (1) 隠岐の目指すべき姿：30 年、50 年先の隠岐
住み続けられる島
誇りと思える島

挑戦できる島

世界とつながる島

感想：野邊先生がこの視察当初に説明されたことが、上記の4つでした。

ビジョンがしっかりしていて、この実現のためテーマを具体的に掲げて行動していました。

(2) ジオパークによる持続可能な地域づくりにむけて

既存団体の統合

(一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と子機観光協会を合併

統括団体として、(一社)隠岐ジオパーク推進機構を設立

感想：法人化によるメリットを活用し様々な角度から、持続可能な地域づくりに向けた活動を行う。隠岐ツーリズムの構築により総合的俯瞰的に隠岐の活性化をする機関の役割を担う機関であることが期待されているとおもいます。

この度の視察は隠岐でした。視察前はあまり気のりしませんでした。しかし、「百聞は一見に如かず」でした。行ってみて大地の成り立ちと海や山がもたらす豊かな自然、人が織りなす生活と歴史・文化をこれほど感じた事はなかった様に思います。

そこには誇りと愛情を持って隠岐を語る 野邊先生の思いが私の心にも入り込んだのでしょうか。隠岐の現在の姿を20年以上も前から思い描いた人々のご苦労が、今から花開くようです。そしてこれに留まらず隠岐の30年、50年先を見据えてのビジョンがあり、これに合わせたテーマがある。「先憂後楽」の言葉を思い出し隠岐の人々は素晴らしい一言です。

5月25日NHK放送のプロジェクトXで、隠岐の海士町の隠岐 島に希望を取り戻せ～破壊寸前からの総力戦～放映がありました。

今回の視察が土浦市発展につながるよう今後も日々精進して活動してまいります。